

## I. 2. 平成27年度 年次報告会におけるアドバイザーによる講評

### 年次報告会

#### (1) 平成27年度アドバイザー一覧

(2) 工業高等学校 平成28年1月18日(月)

(3) 農業・水産高等学校 平成28年1月22日(金)

(4) 商業高等学校 平成28年1月27日(水)

(5) 高等専門学校 平成28年2月 1日(月)

この資料は年次報告会において、各アドバイザーの先生方がお話いただいた講評を取りまとめたもので、アドバイザーの先生方のご了解を得て掲載しているものです。

大きな観点からの講評もあれば、実践的な観点からの講評もありますが、いずれも知財マインドを持ち、創造力・実践力・活用力を育む人材育成の実践に有用なものです。

学校が所属する学校区分の講評だけでなく、他の学校区分の講評も役立つと思われるので、是非ご覧になっていただければ幸いです。



(1) 平成27年度アドバイザー一覧

項番	所 属	職 名	氏 名
1	愛媛県立新居浜工業高等学校	校長	内藤 善文 氏
2	鹿児島県立奄美高等学校	校長	満丸 浩 氏
3	北海道札幌工業高等学校	教頭	新山 雄士 氏
4	北海道滝川工業高等学校	教諭	新居 拓司 氏
5	宮城県石巻工業高等学校	教諭	廣岡 芳雄 氏
6	群馬県立前橋工業高等学校	教諭	大久保哲也 氏
7	長野県駒ヶ根工業高等学校	教諭	林 厚志 氏
8	兵庫県立西脇工業高等学校	教諭	吉田 道広 氏
9	福岡県立福岡工業高等学校	指導教諭	木戸 健二 氏
10	佐賀県立有田工業高等学校（定時制）	教諭	吉永 伸裕 氏
11	群馬県立前橋商業高等学校	教諭	諸星 尚紀 氏
12	岐阜県立岐阜商業高等学校	教諭	後藤 有喜 氏
13	島根県立出雲商業高等学校	教諭	宇田 聡 氏
14	鹿児島市立鹿児島女子高等学校	教諭	安藤 新 氏
15	岐阜県立大垣養老高等学校	教諭	中野 輝良 氏
16	宮城県農業高等学校	教諭	渡部 剛実 氏
17	大阪府立農芸高等学校	教諭	烏谷 直宏 氏
18	鹿児島県立伊佐農林高等学校	教諭	山口 美枝 氏
19	宮城県水産高等学校	教諭	油谷 弘毅 氏
20	愛媛県立宇和島水産高等学校	教諭	鈴木 康夫 氏
21	独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校	教授	大津 孝佳 氏
22	独立行政法人国立高等専門学校機構 旭川工業高等専門学校	教授	谷口 牧子 氏

## (2) 工業高等学校（平成28年1月18日（月））

### アドバイザー（8名）

愛媛県立新居浜工業高等学校	校長	内藤 善文 氏
鹿児島県立奄美高等学校	校長	満丸 浩 氏
北海道札幌工業高等学校	教頭	新山 雄士 氏
北海道滝川工業高等学校	教諭	新居 拓司 氏
宮城県石巻工業高等学校	教諭	廣岡 芳雄 氏
群馬県立前橋工業高等学校	教諭	大久保哲也 氏
長野県駒ヶ根工業高等学校	教諭	林 厚志 氏
兵庫県立西脇工業高等学校	教諭	吉田 道広 氏

### 2-1) 満丸 浩氏の講評

勤務先の高校には、「工業」、「商業」、「情報処理」のほかに「家政」、「衛生看護」があります。その中で、家政科が新しい地元の食材を使った長生きをテーマにした弁当を開発しました。レシピやパッケージも生徒がすべて開発し、最終的に弁当業者さんと製造委託契約を結んだんですが、利益を得るための販売の支援までは踏み込んでいません。

他方、本開発事業の中で実施した商業科、情報処理科の商品開発では地元の「グアバ」という果物の果肉を使った「グアバアイス」を開発、鹿児島県内のコンビニチェーンで販売し、完売しました。

開発事業の指定の有無にかかわらず、両方とも知的財産教育を推進できたという点では、知的財産教育が普及してきて、知財民度が上がり、裾野人材の育成が広がっていることを実感しています。家政科が今回、販売までは踏み込めなかったのは、「簿記」、「会計」の分野の意識が弱かったと分析しています。

今回、工業の年次報告会の中で、各校からすばらしい実践が発表されましたが、工業科の知財教育についても一部家政科の例と同じようなところがあるのではと思っています。知財教育を推進する上で、「簿記」「会計」の分野を意識すると、新たな道が開けるような予感がしています。

## 2-2) 内藤 善文氏の講評

皆様、本当に一年間お疲れ様でした。今日の交流を通して色々な事を学ばれたと思います。また、来年度に向けて頑張ってくださいと思います。

鈴木総業（株）（現：株式会社タイカ）という会社で、取締役 副社長をされた中西 幹育（なかにし もとやす）さんという方がいらっしゃいます。この方は、山口県立下関工業高等学校の卒業生です。この方がアルファゲル（ $\alpha$  g e l）を発明しました。アルファゲルは先生方の靴の中に多分入っていると思います。中西さんは下関工業高校の後輩たちの目の前で、体育館の上からアルファゲルに生卵を落とし、生卵が割れないところを見せ、「卵、割れないでしょう！アルファゲルすごいでしょ！」というような話をされたという記憶がございます。その後、中西さんは曲面に印刷をする曲面印刷技術を開発されています。下関工業高校の卒業生が発明した。これはもう世界中で使われている技術です。こういう技術も工業高校の卒業生から生まれました。

工業高校の卒業生は本当に重要なイノベーションを起こしています。これからも、ますます色々なイノベーションを起こして欲しいと願っています。

私が勤めている愛媛県立新居浜工業高等学校は、ロボットでアメリカンフットボールを行うという競技に参加しております。準優勝とか3位にはなったことはあったのですが、優勝はできなかった。どういう風にしたら優勝できるか考えて、知財学習のノウハウを取り入れました。顧問の先生に、子供達に考えさせるようにお願いしました。今までは教員のアイデアを子供達が作品まで作り込んでいたようなところがあったのですが、徹底的に子供達に考えさせて、もの作りを進めるようにお願いしました。実は、そうすることで昨年優勝、日本一になることができました。優勝して顧問の先生に何が良かったか聞いたところ、一言、「子供達に考えさせました」と答えました。つい教員が口を出し、アイデアを出して指示をしてしまうと、子供達が指示待ち人間になってしまいます。そういう点は、改善していただきたいと感じております。

高等学校の全ての子供達が、創造、工夫、改善、そして発明を意識しながら行動するようになれば、これ以上強靱な知財立国はないと思います。学校で子供達の教育に邁進していただけたらと思います。

他の6人のアドバイザーについては、時間の関係で講評は割愛。後日、事務局にコメントを提出いただいたものについて掲載。

## 2-3) 新山 雄士氏の講評

開始の前に1枚資料に入れさせていただいております、A4、表裏印刷のレジュメ1枚を見てください。

Why?、What?、Who?これを生徒にも伝えてから実施していただきたい。何でこの授業をやるのか、何で知財人材を育てる必要があるのか、常に考えていただきたいということ。あと、どの教科で何に取り組むのか、これをきちんと全員で共通理解していただきたいし、生徒にこれをやる目的をきちんと伝えてからやっていただきたい。また、誰のために、これは知財人材を育成するものですが、それぞれの学校でどのような知財人材を育成するのかというところをきちんと押さえてから取り組まなければ、ただやるだけになってしまうので気をつけていただきたい。

### 平成27年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 年次報告会(まとめ)

アドバイザー 北海道札幌工業高等学校 教頭 新山雄

#### 1 年次報告会

今年度、中間報告会が地域別交流・研究協議会での開催となり、今回初めて一堂に会しての報告会となりました。そこで、各校における取組等を詳細に報告していただきましたが、今一度次の点についてご確認ください、今に役立っていただければ幸いです  
 取り組みのHow to(方法、取組内容等)については、十分に熟れて報告されていますが、次の点も明確に報告いただければさらによくなるでしょう。

観点	具体例	自校の数値では?
<b>Why?</b> 何のため?	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、この開発事業を実施するのか。(目的)</li> <li>この開発事業で、生徒にどんな力をつけたいのか。(育てたい知識、技能、能力)</li> </ul>	
<b>What?</b> 何を?	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの教科・科目で取り組むのか</li> <li>何に取り組むのか</li> <li>Goalは?</li> </ul>	
<b>Who?</b> 誰のため?	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰のための開発事業か?</li> <li>誰が誰をやるのか?</li> <li>生徒が社会で知財人材になれるか?</li> <li>Teamは?</li> </ul>	

※ How to は、方法でしかない。

## TOP 100 GLOBAL INNOVATORS

トムソン・ロイター Top 100 グローバル・イノベーター・アワード

#### 「特許がイノベーションの指標」

イノベーションに積極的で、知的財産権保護の遵守に努め、かつ、世界に影響を及ぼす発明をもたらした企業

#### 「イノベーションのライフサイクル」(発明、保護、商業化)

独創的な発明のアイデア、知的財産権によって保護、事業化させることで世界をリード

#### 調査方法

- 1 数量 最近5年間で100件以上の特許を取得
- 2 成功率 最近5年間で公開された特許出願と登録された特許の割合
- 3 グローバル性 4つの主要市場に出願されたベネシック特許の件数  
※中国専利局、欧州特許庁、日本国特許庁、米国特許商標庁
- 4 影響力 最近5年間に特許が何回引用されたか

★ Thomson Reuters 2015 Top 100 Global Innovators

Honoring the World Leaders in Innovation

<http://ip-science.thomsonreuters.jp/ips/top100/>

5年連続	企業	2011	2012	2013	2014	2015
	アイシン精機株式会社	2			○	○
	旭硝子株式会社	2			○	○
	ブラザー工業株式会社	4	○	○	○	○
	株式会社ブリヂストン	1				○
★	キヤノン株式会社	5	○	○	○	○
	カンパネラ株式会社	2				○
	ダイキン工業株式会社	3	○			○
	株式会社デンソー	3	○	○		○
	フタバ工業株式会社	2	○	○		○
	富士フィルム株式会社	4	○	○	○	○
★	富士通株式会社	6	○	○	○	○
	古河電気工業株式会社	2			○	○
★	株式会社日立製作所	5	○	○	○	○
★	本田技研工業株式会社	5	○	○	○	○
	出光興産株式会社	1				○
	国立研究開発法人科学技術振興機構	1				○
	日本航空電子工業株式会社	1	○			
	株式会社ジェイテクト	1				○
	株式会社コフミデジタルエンタテインメント	1	○			
	ソフトバンク株式会社	2		○	○	
	住友商事株式会社	1				○
	川崎重工業株式会社	1				○
	株式会社村田製作所	2			○	○
	株式会社小糸製作所	2			○	○
	京セラ株式会社	2			○	○
	株式会社マキタ	1				○
★	三菱電機株式会社	5	○	○	○	○
	三菱重工業株式会社	4	○	○	○	○
	三井化学株式会社	1				○
	株式会社村田製作所	1	○			
★	日本電気株式会社	5	○	○	○	○
	日本電産株式会社	1	○			
	日産工業株式会社	1	○			
	日本特殊陶業株式会社	2			○	○
	新日鐵住金株式会社	4	○	○	○	○
	日産自動車株式会社	3			○	○
	日産精工株式会社	4	○	○	○	○
	日本電産株式会社	4	○	○	○	○
★	オリンパス株式会社	5	○	○	○	○
	オムロン株式会社	1			○	
★	パナソニック株式会社	5	○	○	○	○
	株式会社リーコー	2	○			○
★	ロビンソン・エレクトロニクス株式会社	5	○	○	○	○
	株式会社半導体エレクトロニクス研究所	3	○	○	○	
	シャープ株式会社	4	○	○	○	
★	豊田工業株式会社	5	○	○	○	○
	昭和電工株式会社	1				○
★	ソニー株式会社	5	○	○	○	○
	住友電気工業株式会社	4	○	○	○	○
	住友ゴム工業株式会社	2	○			○
	TDK株式会社	3	○	○	○	
	東芝エレクトロニクス株式会社	1				○
	東し株式会社	1				○
★	株式会社愛知	5	○	○	○	○
★	トヨタ自動車株式会社	5	○	○	○	○
	ヤマハ株式会社	3	○			○
	ヤマハ発動機株式会社	1				○
	株式会社安川電機	1				○
	矢崎電業株式会社	1				○

#### 2-4) 新居 拓司氏の講評

本日の年次報告会ではD班のアドバイザーを務めさせていただきました。学校では私も生徒に知財教育の楽しさを伝えています。今日の年次報告会で学んだ各学校の素晴らしい実践を持ち帰って生徒に還元したいと思いました。

知的財産教育はご参加の先生方を中心に、日本の将来を担う生徒を知財人材として育成することが原点です。生徒たちはとても敏感です。「笑いのある楽しい授業」を先生が行えば、生徒は必ずついてきます。今後も報告会などで先生方とお会いできることを楽しみにしています。

#### 2-5) 吉田 道広氏の講評

各工業高校の報告をお聞かせいただき、各学校の特色を活かした取り組み内容でした。ご指導いただいた先生方の素晴らしいご尽力の成果だと思います。

私自身も、これから取り組む上でとても参考になるものも多く、有意義な報告会であったと思いました。

各校ともに生徒一人一人の課題を発見する力や、その課題を解決する力を伸ばさせるため、ものづくりを通し、より実践的に取り組まれておられます。取り組む上では、多くの課題が見つかり、お悩みの点も多く大変であることも十分理解できました。

この各校が抱えている課題や、問題点を解決するためにも、過去の実践内容に関する報告書や地域別交流・研究協議会、年次報告会を有効に活用していただきたく思いました。

私自身、何度も参考にさせていただいたとともに、当事業での参加各校の先生方とのネットワークを十分に活用させていただいております。

また、私の学校も同様ですが、各先生方や生徒諸君が熱心に素晴らしい取り組みをされているにもかかわらず、課題発見力や解決力にとどまっているケースがあり、少し残念に思いました。例えば、課題研究や実習での取り組みでは時間的な制約の問題もありますが、さらにアイデアが知財へとつながり、また知財に結びつかせる方向に学習の展開できれば、各校の取り組みがさらに深長され良かったと思います。是非、知財のキーワードでのまとめまでを生徒諸君とともに学習を深めてほしいと思います。

最後に、地域の企業との連携、当事業参加校やその他の学校とのネットワークを活用し、これからの更なる知的人材の育成を展開できるように、工夫と努力が私たちに求められていると思います。

### (3) 農業・水産高等学校（平成28年1月22日（金））

#### アドバイザー（7名）

愛媛県立新居浜工業高等学校	校長	内藤 善文 氏
岐阜県立大垣養老高等学校	教諭	中野 輝良 氏
宮城県農業高等学校	教諭	渡部 剛実 氏
大阪府立農芸高等学校	教諭	烏谷 直宏 氏
鹿児島県立伊佐農林高等学校	教諭	山口 美枝 氏
宮城県水産高等学校	教諭	油谷 弘毅 氏
愛媛県立宇和島水産高等学校	教諭	鈴木 康夫 氏

#### 3-1) 烏谷 直宏氏の講評

本日はお疲れさまでございました。皆さま、各グループにおける各校の事例報告はいかがでしたでしょうか？今年の年次報告会でも、私は各校の取り組み事例報告に圧倒され、「がんばらないと！」と刺激を受ける良い学びの場となりました。

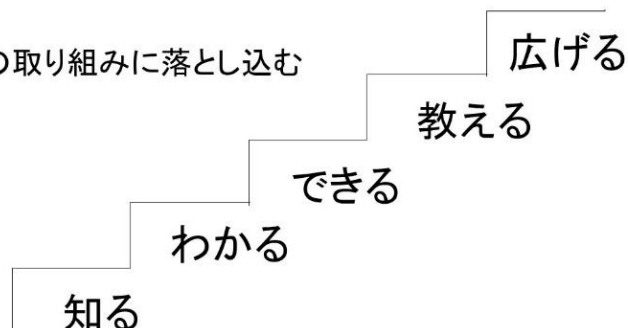
知財の取り組みをはじめ、気がつくと5年半が経ちました。先輩教諭に進められてはじめてのですが、はじめは無我夢中でわからないことばかり。知財に取り組み始めた当初、産業財産権テキストの内容を授業で活用するには難しく、私自身も生徒もお互いに苦しい時間が経過しておりました。しかし、「知財学習とは何か」について、中間報告会や年次報告会で各校の実践的な取り組みを真似るところからはじめることで、知財の取り組みを理解できるようになりました。真似ることで知財を知り、知財への取り組み方がわかるようになりました。知財を本校版に落とし込むことができるようになり、知財を人にも他校にも教えることができるようになりました。本校の生徒と共に小中学校などへ生徒による出前授業を展開して、知財学習を発信し、知財学習の取り組みを広げることができるようにもなりました。知財学習の取り組みを広げることで、また新しい知財学習の視点に気づき、知財を見直す機会となるなど、本校内に知財学習の正のサイクルが生まれてきました。まずは真似るところから「やってみる」ことが大切だと感じております。

本日は、明日学校へ教室へと持ち帰ることのできるお土産がたくさんできました。新しいステップを踏み出すことができそうです。本日はありがとうございました。



## やってみる

=学校の取り組みに落とし込む



### 3-2) 鈴木 康夫氏の講評

宇和島水産高等学校の鈴木です。本日はお疲れ様でした。アドバイザーという立場で参加させていただいておりますが、実際には私も皆さんと同じような立場でいつも学びたいという思いで参加させていただいております。いつも感じる事は、同じような悩みを持っていたりするケースが多いということです。いちばん始めにこの会に参加した時にはすごく不安だらけでした。その不安というのが、「知財の取組を本当にやっていけるのだろうか」というところから始まりました。経験年数の少ない先生方は、そういうところにおられるのかなという風を感じております。

私は今、(取組初めてから) 4年目です、不安にあまり思わなくなってきました。それはなぜかというと、あまり不安に思っても良いことがないので、前向きに進んで行こうという様な考えでこれに取り組んでおります。その不安を無くしてくれたのは、先ほど鳥谷先生も話しておられましたが、「まねる」ということをし出してからです。まねるということと言うと、うちの学校ではマグロ解体ショーをやっておりますが、それはもともと高知にあります高知県立海洋高校がマグロの解体ショーをやっているよということを知り、うちでもできるのではと行って取り入れました。また、いろんなところに報道に出しているということを知り、焼津水産高校から学びました。そういったところで、自分のところでも取り入れていける物をどんどん取り入れて行って、いいものにしたいなというふうにしていったら、だんだん不安は無くなって行って、生徒の目がちょっとずつ輝きだし、生徒が輝くから教員も頑張りたいなということになっております。

それで、これからやっていきたいなと思っていることは、この会に集まっている皆さんともっともっとながらっていいものを創って行きたいなと考えております。またよろしくお願ひ致します。

### 3-3) 油谷 弘毅氏の講評

宮城県水産高等学校の油谷です。本日はお疲れ様でした。私も東日本大震災の年からこの知財学習に参加させていただいておまして、とにかく色々毎回目からうろこが落ちております。アドバイスというよりは、この会に来て、感じていることをお話させていただきます。

先日ノーベル賞を受賞された大村先生の記者会見で、「実学は人の役にたたないとダメ」というお話がありました。北里大学の創始者 北里柴三郎氏の言葉でもありまして、ハッとしました。これはずっと私も教員になったときから考えていたことでもあり「何のために専門高校の教員をしているのか」と結構自問することがあったのですが、「社会の役にたてるような人材を育成していくこと」がわれわれの仕事だと、この言葉を聞いて、確信しました。この知財の会議で感じられることはノーベル賞受賞者の記者会見での発言と同じであって、あっ「これだ」と、また少しやる気が出てきました。社会の役に立てるような活動から特許や商標につながっていくことができれば幸せだなと感じ、明日以降教壇に立てたらと思います。

今日もいろんな気づきが私もありまして、勉強させていただきました。有り難うございました。最近気にしていることは、教員間で「何を教えようか、何を教えようか」という会話がされるんですけども、「何を身につけさせたいのか」ということをハッキリしていけば、何を教えなければならないかははっきりしますし、知財も専門教育の中ですごく強力な武器になってくるんだろうなということを感じております。今日もそういうことに感じさせてくれるプレゼンをたくさん拝見させていただきました。本当に勉強になりました。ありがとうございました。

### 3-4) 渡部 剛実氏の講評

こんにちは。宮城県農業高等学校の渡部と申します。本日は大変お疲れ様でした。

本校は東日本大震災で学校がもうなくなってしましまして、現在でも仮設校舎でございます。あと2年間仮設校舎での生活となります、昨日の大雪で、屋根から滝の様な水が落ちてきて、仮設校舎での生活にも限界がきたように感じているところです。このような中で、学校を盛り上げていくには、私は知財教育しかないと強く感じております。今日の各分科会からの発表を聞いて、より強くそう確信することができました。

ある生徒がこんなことを言っていました。「私は地域の役に立つプロジェクトとか、地域連携とかいう活動には絶対参加しない」と思っていました。ところが、先生から誘われて実際に参加してみると、なんか楽しくできた。そして一番良かったのが、地域の人に「ありがとうね。今日は良くやってくれました。」と言われました。そのことによって、自分がやったことがこんなに地域から感謝

してもらえたんだ。なんかやって良かったなと思えた。そこから、生徒はメキメキとどんどん変貌しまして、まあ、目が覚めたとかか覚醒したとかいろいろなことにチャレンジするようになりまして、活躍できるようになりました。これも先生方からの一声、多少強引でも、生徒の目をみて引きずり込む、生徒と一緒に汗を流していくことが、生徒がやる気を出す、変わっていく（ことができる）ひとつのターニングポイントだと思います。これからも厳しい状況ではありますが、知財学習を信じて、頑張っていきたいと思っています。本日は有難うございました。

### 3-5) 山口 美枝氏の講評

こんにちは。鹿児島県立伊佐農林高等学校の山口と申します。アドバイザーというお仕事をいただいて、今年初めての経験でしたけれども、何一つできなかったなと思って反省しています。

本日は3点お話ししたいと思います。一つは、夏に開催された地域別交流・研究協議会についてです。グループ協議の中で話が出来なかったののではないかと思います。

先生方がどんな感想をもたれたかなということが大変気になっております。私自身の感想としては、九州地区の2つの会場に参加しましたが、いろいろな校種の生徒が一同に会して模擬授業やグループ討議ができたことについては良かったと思っています。私が引率した生徒達についても、収穫があったように思っています。この会については、すごく良かったなと思っています。一番感じたのは、校種によって個人によってもそうですけども、子どもたちの個性がすごく違うなということを感じました。人と自分の違いに気づくということが自分の成長につながるのではと思いました。先生方、どの様に感じられたでしょうか、また生徒のみなさんがどのように感じられたのかと思っています。

それから、今日のグループ協議の中で、私はA班でしたけれども8校それぞれ学校の状況が違っております。取組年数も違います。それぞれの情報交換は今日できたのかなと思っていますが、大事なことは、全国に知財教育を行っている仲間がいるということ、ここで感じていただけたらいいのかなと私自身思っております。

最後に、私たちの仕事である教育の目標は何かというと、「人材育成」さきほど仰った方もありましたけれども、どういう子ども達を育てていくか、何を育てていくかということを知財教育のなかからヒントが沢山あったのかなと思っています。今日の発表の中で聞いたことを持ち帰って、これからの自分の学校での仕事に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

### 3-6) 中野 輝良氏の講評

みなさんお疲れ様でした。先生方、今日は1日、面白かったでしょうか？よく授業でも生徒から「今日おもしろかったよ」と言われると励みになります。今日はやってやるぞと思っていたのに、授業が終わった後の反応が薄いとがっかりしてしまいます。面白い授業とはどんな授業なのか、お手元のアンケート結果をご覧くださいと思いますが、私の授業では、実物を使った授業、実例を使った授業が良いという回答があります。見えないものについて話してもなかなか伝わらないので、とにかく実物を持って行くというわけですね。実物を見ると、そこから何か掘り下げて勉強してみようかといったことになります。で、その実物や実例に後から裏づけをすることに学習効果がある。と、いうことが、実践後に調査・分析を実施した結果、有効な手法であることが分かったということなんですね。ぜひ、様々な取り組みのふり返りを大切にいただければと思います。

今日は様々な事例を見て勉強されたことと思います。実は今日、意識的に最初のお話の中で「材料」というキーワードを申し上げましたが、耳に残っていらっしゃいますか？

たくさん材料がある方が、色々なことを伝えることができますし、色々なものが作れます。例えば、卵が1個あって、それ以外に材料がないときに、どうやって食べますか？多分、生卵を飲むしかないですね。ここで一つ材料を増やします。例えば道具、フライパン。こういうのが出てくると、卵とフライパンになったら、目玉焼きができそうじゃないですか。じゃあ、鍋があったらゆで卵ができそうじゃないですかという話ですよ。さらにここに、もし酢と油が出て来たら、何ができますか。マヨネーズができそうじゃないですかと。

こうやって見てくると、たくさん材料をもっていれば、色々なものを組み合わせて新しいものを作ることができます。これが「発明」だと思うんですよ。「発明」は組み合わせです。組み合わせるためにはたくさん材料が必要なんです。今日の会の中で、他校の事例など、たくさん材料があったと思います。こぼさず材料をお持ち帰りいただいて、使っていただきたいと思います。そして良い発想と発明を子どもたちと一緒にしていただきたいと思います。

では次に、材料をたくさん持っていたらいいものができるのかということ、必ずしもそうではありません。ここが農業・水産の核になるところだと思います。では一番の基本は何ですかということ、「生産」です。海の魚を獲ってくる、農業で言えば畑で野菜を作る、動物を育ててそれを・・・といったことが基本なのです。この「基本の生産力」がもしなかったらどうでしょう。卵の話に戻ります。すてきな道具があります、お酢もあります、油もあります、ところが卵が腐っていました。どうですか、その卵食べられますか。食べられませんよね。

知財と聞いて、色々な組み合わせが浮かび、応用的な発明などにもつながるのですが、絶対に忘れてはいけないのが、一番の根底にある、「生産」をするということなんですね。そこに今日のような話が組み合わさって、ものの価値や取り組みの価値が、2倍3倍に伸びるということを、農業・

水産の指導においては押さえておきたいところかなと思っています。

学習指導要領を見てみると、その基本の生産や栽培等に続いて、知的財産について取り扱うとか起業的などところに力をいれるとか、商品開発をやってみるといったことが示してあります。バランス良く内容を組み込んでいただくことを意識して、今日の材料を使っていただくと効果的なのかなと思います。

材料の次ぎは落とし込みです。授業において落とし込むのはカリキュラムです。どの授業で、どの学年でそれを落とし込んでいくのかという計画立てをしていきます。座学で子どもたちに話をすると、「先生わかった」と声があがります。分かった方法を次に実習でやってみます。私はパンを良く焼いていますけれども、パンの作り方と材料を座学の授業で黒板に示すと「先生わかりました」と。で、実習でパンを実際に焼いてみると、「あっ、こういうことか、できるじゃないか」と。つまり、「かたち」になるんですよね。実際に見えてくるし、手にとるようにわかる。さらに、そこに更に知財のことが加わっていくと、商品価値が上がったり、価値が上がったりして、そういう理屈だったのかと実感するんですね。さらに科学的なところも見えてきます。

そして3つ目は評価、分析による検証です。ここまでで終わってしまったら「自己満足」なんです。先ほどアンケートの話をしました。指導者が思い描いて子どもたちに投げたことが的を得ているのか間違っているのか、常に検証して行かなければいけないと思います。アンケートをとるというのも一つの方法、他校の事例と照らし合わせてみることも一つの方法です。今日、材料は沢山ありましたよね。次に何をしましょうか、今の立ち位置はあっていますか、頭が痛いのにおなか痛の薬を出していませんかというような事です。効果の高い授業展開や、材料を投げていくことを意識していただくと、今日もう全ての材料はそろっておりますから、持って帰って形にしていだけるのではないかと思います。

さて、こうして私に与えられたわずかな時間の中で何を伝えられたかなと、先生方へのお話し＝商品開発は大丈夫だったかな、消費者ニーズ捉えられたかな、とちょっと不安です。・・・ということなんですね。先生方の授業は生徒たちに求められていますか、価値はありますか。これを5年10年と研究し続けて授業を商品として売り続けたら、「先生の授業は受けてみたいです」となりますか。まさに、我々の授業はブランドみたいなものじゃないですか。そういう観点で明日からの授業を、今日お集まりの皆さん方、先生方で頑張って、知財学習を軸にそれぞれの専門分野で幅広いスペシャリストを育てていければと思っております。本日は沢山の学びを有り難うございました。ぜひ、また来年、この場所でお会いしましょう。ありがとうございました。

### 3-7) 内藤 善文氏の講評

先生方、本当にお疲れ様でございました。

昔、子供達が裸足で野山を駆け巡っているような時代、その遊びの中から学びが生まれたと言われております。そうした時代を過ごした人々の中から、ノーベル賞受賞者が生まれているようです。その他大勢の著名なクリエイターも、野山を裸足で駆け回っていたようです。ところが今の時代は、生まれた赤ちゃんに靴下をはかせて、過保護すぎる子育てをしている現状があります。これで日本は大丈夫かという気がしています。昔は遊びの中に学びがあったのですが、今は遊びは遊び、学びは学びといった傾向で、人工的なおもちゃで遊ばせて、そして勉強は学校や塾でするといった感じですか。分断されてしまっています。実は、アクティブ・ラーニングに取り組んでいらっしゃる先生方はおわかりだと思いますが、今日の発表にも沢山ありましたが、実は遊びの中から学びが生まれております。これがアクティブ・ラーニングの本質であるという気がしています。人を育てるといふ山の頂上（目標）に行くに、色々なルートがあるはずですが、今日私たちは、知財をツールとした教育手法について情報交換をしたのですが、子どもたちを育てるといふ目標は皆同じです。よくよく考えてみると、古い話ですが、中国の戦国時代に思想家の荀子という人物がおります。その方が残している言葉に、「聞いただけでは忘れてしまう、見ただけだったら覚えてはいるけど思い出す程度で、体験することで初めて理解できる。自分で発見したらこれで初めて身につく」というのがあります。今日の発表についても、これがすべてではないかなと思っています。

先ほどの中野先生のお話の中で、「見えているけど見えていない」というのがありましたが、私も実はその手のお話をしようと思います。工業の話なのですが、QRコードについてです。これを発明したのは、窓際に追いやられていたエンジニア達です。何か一発逆転しようと思って創ったものです。二次元バーコードの数百倍の情報量が詰め込まれているQRコードを開発するときに、なにげなく窓の外を見ていて、ビルの窓の景色を見ていたときに、あっ！これだと思いついて創ったのだそうです。ですから、QRコードの模様は、実はビルの窓なのですね。ビルを見て大発明をするなんてことは、普通はありえませんが、課題を持って、「何か開発したい何かこの問題を解決したい」という強い気持ちでずっと考え続けると、同じものを見ても見えてくるということです。そういうような「見る目」を持つ生徒を育てていくことが私たちの役目だと思います。

最後になりました。日本人でノーベル物理学賞を取られた梶田先生が、子どもの頃のエピソードを語っていらっしゃいます。梶田先生の将来の夢は、実はLEDを発明された中村修二先生と同じだったということです。それは、漫画家手塚治さんの「鉄腕アトム」にでてくる御茶ノ水博士になったかっということ。何が言いたいのかというと、「子どもたちの心の中に夢を植える」というのが本当の教育の仕事だということです。

以上、何かの参考になれば幸いです。今日一日本当にご苦労様でした。

#### (4) 商業高等学校 (平成28年1月27日 (水))

##### アドバイザー (6名)

鹿児島県立奄美高等学校	校長	満丸 浩 氏
北海道札幌工業高等学校	教頭	新山 雄士 氏
群馬県立前橋商業高等学校	教諭	諸星 尚紀 氏
岐阜県立岐阜商業高等学校	教頭	後藤 有喜 氏
島根県立出雲商業高等学校	教諭	宇田 聡 氏
佐賀県立有田工業高等学校定時制	教諭	吉永 伸裕 氏

##### 4-1) 宇田 聡氏の講評

出雲商業高校の宇田と申します。私まだ4年目、アドバイザーというかこの席に座らせていただいてまだ2年です。まだまだ勉強をしているところで、今日の発表を聞かせていただいて持ち帰って、ぜひ活用させていただきたいということもありました。資料等も持って帰ってぜひ頑張りたいと思います。

地域の企業の方の協力を得て活動をすすめているのですが、企業の方から、それやると生徒はどう変わるのか、それやったら生徒がどんな能力がつくのか?ということ聞かれることが多くあります。4月からまた活動をはじめていきますが、これからの2ヶ月間でしっかりとプログラムをたて、進めていきたいと考えています。今日は1日ありがとうございました。

##### 4-2) 後藤 有喜氏の講評

県立岐阜商業高校の後藤です。よろしくお願ひします。今日私アドバイザーというかたちで私参加させていただいたのですが、逆に皆さんから色々お話を伺って、それぞれの学校さんでやっぱり本当に工夫していただいているのが見えて、そういう心意気っていか気持ちっていかそういう想いがみえて、私もまだ頑張らなきゃいけないなって本当に思ったのと、それから、これからどうしようか、来年からどうしようかと考えている中で皆さんからたくさん色んなヒントをもらうことができましたと思います。

苦しみながらもやっておりますので、今日はそういったことも含めて、色々な話が聞けてよかったです。今日はありがとうございました。

#### 4-3) 諸星 尚紀氏の講評

群馬県立前橋商業高校の諸星です。先生方、大変一日長い間、大変お疲れさまでした。また、私C班を担当させていただいたんですけども、C班の先生方、非常に色々なことに工夫をされて試行錯誤されながら、生徒の為ににより効果的な手法はどうしていったら良いのかを考えられながら、先生方も切磋琢磨というか、先生方も自分たちを高めながら、生徒に還元していけるような手法を模索されているような状況で、私も非常に励まされた思いがしました。

まだ年数の浅い参加校の先生方でしたので、非常に活力のある感じを受けました。色々な取り組みをされていて、それを私もまた持ち帰らなければいけないなという風に、今日はいいお土産を頂きました。ただ、年数も浅いということで先生方の資料を読ませて頂くと、体制づくりに非常に困っているというようなご意見がありましたけれども、やはりこれから何人かこの中でこれを続けていくということを考えた時に、先生方だけだとどうしてもこれは狭まってしまうと思いますので、学校のスタッフとして、いずれ先生方も異動される機会もあると思いますし、そういった時に、学校に資産としておいておけるものというのは、やはりこういう先生方が中心となられて体制づくりをされていくと、非常に労力のかかる作業だとは思いますが、生徒を指導する以上に大変な作業だとは思いますが、そういったものが、体制づくりをされていけば、こういった取り組みがどんどん全国に広がっていくのかなと思いますので、私も含めてなんですけれども頑張っていければと思いますので、今日は一日大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

#### 4-4) 吉永 伸裕氏の講評

A班を担当いたしました、佐賀県有田工業高校の吉永です。長い時間でしたが、ありがとうございました。非常に勉強になりました。展開型の岐阜商業高校さんを始め、比較的経験の長い学校の取り組みを聞かせていただいたのではないかなと思いました。

その中で、展開型の県立岐阜商業高校さんはもちろんなんですけども、どこも、オーバーワークに近いぐらいの積極的な取り組みをなさっておられます。かつ、やっていることに満足せず、やっていることが本当に生徒の向上に役立っているのかということを検証する意識を持たれているというのが非常に印象的でした。そういったところを改善していく、職員に生徒にどうやって下ろしていくのかということを考えていращやる、生徒にうまく下りていないんじゃないかという危



機感を持って常に知財と向き合っている姿勢を感じました。そういったところは、私も非常に勉強になりました。

また、県立岐阜商業さんがやられているような展開型の取り組みというものはいずれ複数年、導入型の方で取り組まれている学校さんにとっては、そこを目指していくという大きな旗がしらになっているんじゃないかなということを感じました。

うちの学校ではこれならできる、これができないかもしれないとそういった取捨選択をしながら、次の前向きなアプローチをしていくという前向きな姿勢を感じたA班の発表でした。そういった姿勢をまた今年も最後にいただいて帰れるなと思いました。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

#### 4-5) 新山 雄士氏の講評

1日お疲れ様でございました。大変勉強させていただきました。開始の前に1枚資料に入れさせておいてあります、A4、表裏印刷のレジユメ1枚を見てください。今出さなくても結構です。帰って見ていただければ、結構です。3点だけお願いいたします。

年次報告会、すばらしい取り組みご報告いただきました。ただ、Why?、What?、Who?これを生徒にも伝えてから実施していただきたい。何でこの授業をやるのか、何で知財人材を育てる必要があるのか、常に考えていただきたいということ。あと、どの教科で何に取り組むのか、これをきちんと全員で共通理解していただきたいし、生徒にこれをやる目的をきちんと伝えてからやっていただきたい。また、誰のために、これは知財人材を育成するものですが、それぞれの学校でどのような知財人材を育成するのかというところをきちんと押さえてから取り組まなければ、ただやるだけになってしまうので気をつけていただきたい。

それとあと数値ですね。生徒がこれをやることによって理解が深まったという。なぜ?根拠は?そこがこれからは重要になってきます。新学習指導要領では、「何を教えるのか」ではなく、これをやることによって「どんな力が身につくのか?」ということが絶対求められますので、今のうちからやっていただきたいと思います。

二つ目です。知財の活用力のところの話しがBグループのところはあまり出ておりませんでした。活用力ですが、知らせることだと思います。この中で有限会社中村印刷所のノートの話しをご存じの方いらっしゃいますでしょうか。12月の話しですよ、A4のノートを作ってる会社です。グラフ用紙のノートですが、A4を開くとA3のグラフ用紙になって、真ん中がまっすぐフラットになるのです。特許出願をしています。でも、売れないのです。なんで?…知らないからです。そこで、孫娘に渡して、学校で配って使ってくれと…。でもその子がツイッターでつぶやいたら、アマゾンもヨドバシカメラも扱うようになり、もう在庫がなくなったそうです。ですから、良い物

があっても知らなければ売れないし、良い物だったら高くても売れるし、そういったことが活用力ということなのです。ぜひ、ネットで中村印刷所さんを調べていただきたいと思います。

三点目、最後です。トムソン・ロイターという会社をご存知でしょうか。商業の先生はご存じですよね。テレ東の経済ニュースの中にはよく出てくる会社ですが、そこで、TOP100グローバルイノベーターアワード、特許をどれだけ出願して、登録して、どれだけ活用されているか。それを指標にしてトップ100という世界の100社を選んではいるのですが、40社日本企業が入っています。5年目ですが、5年連続が15社あります。韓国が3社、台湾が1社、中国0社。中国においては国内特許しかとっていないようです。国際特許は出していないという現状があると思われま。日本の企業のことをきちんと正確に教えて、だから「この授業をやるんだよ」と生徒も目的がはっきりしますよね。ですから、先生方も日本の動き、世界の動きに耳を傾けていただきたいと思います。裏面に過去5年間をまとめてみました。先生方が知っている会社もあると思います。このような会社に生徒も、工業の生徒も商業の生徒も働く機会があると思いますので、そういったところも含めてご指導いただきたいと思います。今日は一日ありがとうございました。

平成 27 年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 年次報告会(まとめ)

アドバイザー 北海道札幌工業高等学校 教頭 新山雄士

1 年次報告会

今年度、中間報告会が地域別交流・研究協議会での開催となり、今回初めて一堂に会しての報告会となりました。

そこで、各校における取組等を詳細に報告していただきましたが、今一度次の点についてご確認いただき、今後に役立てていただければ幸いです

取り組みの **How to** (方法、取組内容等) については、十分に触れて報告されていますが、次の点も明確に報告していただければさらによくなるでしょう。

観点	具体例	自校の取組では？
<b>Why ?</b> 何のため？	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、この開発事業を実施するのか。(目的)</li> <li>この開発事業で、生徒にどんな力をつけたいのか。 (育てたい知識、技能、能力)</li> <li>知財人材育成になっているか？</li> </ul>	
<b>What ?</b> 何を？	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの教科・科目で取り組むのか</li> <li>何に取り組むのか</li> <li>Goal は？</li> </ul>	
<b>Who ?</b> 誰のため？	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰のための開発事業か？</li> <li>誰と誰が何をやるのか？</li> <li>生徒が社会で知財人材となれるか？</li> <li>Team は？</li> </ul>	

※ How to は、方法でしかない。

## TOP 100 GLOBAL INNOVATORS

トムソン・ロイター Top 100 グローバル・イノベーター・アワード

「特許がイノベーションの指標」

イノベーションに積極的で、知的財産権保護の遵守に努め、かつ、世界に影響を及ぼす発明をもたらした企業

「イノベーションのライフサイクル」(発明、保護、商業化)

独創的な発明のアイデア、知的財産権によって保護、事業化させることで世界をリード

調査方法

- |          |   |
|----------|---|
| 1 数量     | 直近 5 年間で 100 件以上の特許を取得                                  |
| 2 成功率    | 直近 5 年間で公開された特許出願と登録された特許の割合                            |
| 3 グローバル性 | 4 つの主要市場に出願されたベーシック特許の件数<br>※中国特許局、欧州特許庁、日本国特許庁、米国特許商標庁 |
| 4 影響力    | 直近 5 年間に特許が何回引用されたか                                     |

☆ Thomson Reuters 2015 Top 100 Global Innovators

Honoring the World Leaders in Innovation

<http://ip-science.thomsonreuters.jp/ips/top100/>

5年 連続	企業	回数	2011	2012	2013	2014	2015
	アイシン精機株式会社	2				○	○
	旭硝子株式会社	2			○	○	
	ブラザー工業株式会社	4	○	○	○	○	
	株式会社ブリヂストン	1					○
☆	キヤノン株式会社	5	○	○	○	○	○
	カシオ計算機株式会社	2				○	○
	ダイキン工業株式会社	3	○			○	○
	株式会社デンソー	3	○	○		○	
	ファナック株式会社	2	○	○			
	富士フイルム株式会社	4		○	○	○	○
☆	富士通株式会社	5	○	○	○	○	○
	古河電気工業株式会社	2				○	○
☆	株式会社日立製作所	5	○	○	○	○	○
☆	本田技研工業株式会社	5	○	○	○	○	○
	出光興産株式会社	1					○
	国立研究開発法人科学技術振興機構	1					○
	日本航空電子工業株式会社	1	○				
	株式会社ジェイテクト	1					○
	株式会社コナミデジタルエンタテインメント	1	○				
	ジヤトコ株式会社	2		○	○		
	花王株式会社	1				○	
	川崎重工業株式会社	1					○
	株式会社神戸製鋼所	2				○	○
	株式会社小松製作所	2				○	○
	京セラ株式会社	2				○	○
	株式会社マキタ	1				○	○
☆	三菱電機株式会社	5	○	○	○	○	○
	三菱重工株式会社	4		○	○	○	○
	三井化学株式会社	1					○
	株式会社村田製作所	1	○				
☆	日本電気株式会社	5	○	○	○	○	○
	日本電信電話株式会社	1	○				
	日東電工株式会社	1	○				
	日本特殊陶業株式会社	2			○	○	
	新日鐵住金株式会社	4		○	○	○	○
	日産自動車株式会社	3			○	○	○
	日東電工株式会社	4		○	○	○	○
	日本電信電話株式会社	4		○	○	○	○
☆	オリンパス株式会社	5	○	○	○	○	○
	オムロン株式会社	1			○		
☆	パナソニック株式会社	5	○	○	○	○	○
	株式会社リコー	2		○		○	
☆	セイコーエプソン株式会社	5	○	○	○	○	○
	株式会社半導体エネルギー研究所	3	○		○	○	
	シャープ株式会社	4	○	○	○	○	
☆	信越化学工業株式会社	5	○	○	○	○	○
	昭和電工株式会社	1					○
☆	ソニー株式会社	5	○	○	○	○	○
	住友電気工業株式会社	4	○		○	○	○
	住友ゴム工業株式会社	2	○			○	
	TDK株式会社	3		○	○	○	
	東京エレクトロン株式会社	1				○	
	東レ株式会社	1					○
☆	株式会社東芝	5	○	○	○	○	○
☆	トヨタ自動車株式会社	5	○	○	○	○	○
	ヤマハ株式会社	3	○			○	○
	ヤマハ発動機株式会社	1					○
	株式会社安川電機	1					○
	矢野総業株式会社	1					○
13			27	25	28	39	40

#### 4-6) 満丸 浩氏の講評

年次報告会の発表では、本開発事業の目的でもある、生徒が自ら考え、行動し、評価し、改善する「自立型人材」の育成ができていたか、「明日の産業人材」の育成を意識していたかという点に留意しながらお聞きしました。

各学校が自己評価をされていましたが、導入・定着型では、組織的に定着を努力しているか、そして、それが出来ることによって学校内で裾野人材が広がっているか、知財民度を高めているか、展開型では、得られる成果や特徴ある指導方法を紹介し、導入・定着型の学校などが、展開校の実践をまねしたいな、この指導法を取り入れたいなというような成果があったかが評価のポイントかと思います。その中で、県立岐阜商業高等学校がこの事業1年間の達成目標を3つ示して、それに対する成果を発表されたのは、成果発表の良い例だと思いました。

さて、どの学校も一生懸命活動されていますので、中にはオーバーワーク気味であるとの発表がありました。自分自身の教育のツールとして知財教育があると考えたとオーバーワークが少し解消できる気がしています。私自身は、不本意入学してくる生徒にも入学した学校学科がおもしろい、入学して良かったと思わせるツールとして知財教育を使っています。生徒が知財教育っておもしろい、学校が楽しいと変容する姿にこちらの授業も楽しくなります。今日の発表の中にも知財教育によって生徒が失敗を恐れなくなったと生徒の変容が紹介されていました。知財教育によって生徒が成長し変容していくというのはすばらしいことだと思います。

## (5) 高等専門学校 (平成28年2月1日 (月))

### アドバイザー (2名)

独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校 教授 大津 孝佳 氏

独立行政法人国立高等専門学校機構 旭川工業高等専門学校 教授 谷口 牧子 氏

#### 5-1) 谷口 牧子氏の講評

この一年間、諸先生方や生徒・学生さんたちから多くのことを学ばせていただきました。どうも有難うございました。私も勉強になりました。

実は先般、内閣官房 知的財産戦略推進事務局の「知財教育タスクフォースの委員」に指名されました。知的財産に関する教育の内容・方向性についての議論が行われると聞いておりました、2月18日(木)にプレゼンをすることになっております。テーマは「高専での知財教育の実践及び国立高専機構の取組と課題」ということで正に今、学んでいることが大事なのではないかと思っております。ですので、皆様の成果をいろいろ伺って持って行きたいと思っておりますので、本日言って欲しいことなどありましたら、是非おっしゃっていただければと思います。

引き続き来年度以降も本事業のお手伝いを含めまして、知財学習の拡充に取り組んで行きたいと思っております。皆様方も積極的に関わっていただきますよう、よろしくお願いいたします。

#### 5-2) 大津 孝佳氏の講評

今年も各校の取組が年々充実されており嬉しく思います。特に、各校の特徴を活かした取組がされてきており、先生方のご尽力は素晴らしいと思えました。更に、中間での地域別報告・交流会、本日の最終報告会を通して、いろいろと参考になるものがあったと思っておりますので、各学校の特性に合わせてアレンジしていただければ、より良い活動になると思っております。

本事業は、これまでの導入・定着型に、展開型を加え、知財学習の推進・地域への貢献・自立化を目指し、高専としては、導入校7校、展開校2校が取り組んでいます。特に、本事業を通じて、地域でのより密度の高い貢献を意識し、学生達の交流によるモチベーションの向上も目指しています。活動をする上で、「高専での特徴をどのように活かすか」、「地域の特性をどのように活かすか」が、重要になってくると思います。

因みに、ご自身の学校の周りに、本事業でどのような学校があるのか理解されていますでしょうか。例えば、東海地区では、岐阜県が6校、愛知県が3校、三重県が2校、そして、静岡県からは6校が本事業に参加されています。是非、近隣の参加校とも連携して知財学習を展開していただければと強く感じています。

私は、今年度4月に鈴鹿高専から沼津高専に転任しました。沼津高専ではゼロからのスタートと言う気持ちで知財学習に取り組んでいるところです。そこで、私自身も静岡県内の学校と連携して進めていけるよう、取り組んで行きたいと思っています。

ここで、東海地区の地域別報告・交流会で取り組んだ3色でのブレインストーミング・KJ法を活用して課題発見・課題解決の提案をし、それを実現する上で技術矛盾を見出し、TRIZにより解決策に結び付けた事例をご紹介します。これは、沼津高専にて、知財学習に関心のある学生達と地域課題である「食育の推進」について取り組んだものです。TRIZとは特許の分析から生まれた発想法です。40の発明原理からなり、矛盾マトリクスにより整理され、発想のヒントを与えてくれるツールです。食育と言った課題の中で、地域特性を活かしどのように取り組むか、技術矛盾の解決にはどのようにしたらよいのか等の検討の中でロボットを使おうというアイデアが生まれ、実際に主食、主菜、副菜、乳製品等の「色と動作の関連性」に基づき、高専生達が自分達でロボットを作り、それを富士市食育推進課、地域の幼稚園の子供達と一緒に実証試験をやりながら、「色と動作の規則性の発見」を通じて、子供達が食べ物への関心を高め、地域への貢献をしました。実際に幼稚園での取り組みを通し、高専生達もいろんなアイデアを生み出し、また、地域の子供達も成長して行く姿を見ることができました。

是非、交流・研究協議会で習ったブレインストーミングやKJ法を使って頂き、有意義な地域との交流をしていただければと思います、簡単ではありますが事例の紹介をさせて頂きました。TRIZにご関心があれば、メール等でいつでもご連絡ください。いろいろとご指導いたします。よろしく願いいたします。以上です。今日は有り難うございました。

以 上